あぜみち

2020. December 12

No.356 令和2年12月15日発行
発行所/ハリマ農業協同組合・総務部企画管理課
〒671-4193 兵庫県宍粟市一宮町東市場429番地1
TEL(0790)72-1234
(JAハリマEメール) info@ja-harima.or.jp
URL http://www.ja-harima.or.jp/

モバイルサイトにアクセス!

今月のイチオシ!

農薬の適正使用
農薬の表示ラベルを確認していますか?

あぐりスマイル
●千種町岩野辺
杉本(すぎもと) 杏(あん)ちゃん
蘭(らん)ちゃん
(紹介は11頁)

JAハリマ
ISO9001 認証取得
営農指導と丹波黒大豆の加工

コラム

組合員・利用者とのふれあい・対話・接点

代表理事組合長　上野　智也

現在、魅力ある地域づくりの実現を目指し、総合事業活動による自己改革の実践を行っています。

例年の11月は、収穫の秋に感謝し、組合員・地域の皆さんのご協力、参画いただく「農産物品評会」「ふれあい秋まつり」を開催し、地域とのふれあい・対話を深め、接点づくりに努めていましたが、今年は新型コロナウイルスの影響により中止を余儀なくされました。

新型コロナウイルス感染症の脅威は予断を許さない状況が続いていますが、農家の皆様には感染防止対策をとりながら夏の猛暑など厳しい気象条件を克服され、農産物の栽培に苦労していただきましたことに感謝いたします。

ＪＡ事業においても新型コロナウイルスの感染拡大の影響は大きく、まだまだ回復には至っておりません。

そのような中、感染防止対策を徹底したうえで、農協総代支部長会を開催させていただき、上半期の事業概況、中期経営計画の進捗状況報告を行いました。また、営業部運営委員会では、事業利用促進、協同活動の強化に向けて、多様化する組合員のニーズを農協運営に反映させるために、ＪＡの事業や運営に対するご意見やご要望等をたくさんいただき、委員の皆様と意見交換を行うことができました。これからも皆様との対話を通じて組合員と役職員のコミュニケーションを密にし、ＪＡをよりどころとした活動を行っていくため、今回のご意見・ご要望をＪＡ運営に反映させ、各事業のバランスの見直しとともに、ふれあい・接点づくりに注力し、地域貢献活動とともに事業間連携による総合力を発揮した事業活動を展開してまいります。

令和3年3月末をもって現農協総代さんが任期満了となります。次期改選では、地域の状況が大きく変化し営業部ごとの組合員戸数も変動していることから、選挙区ごとに妥当な総代定数にするため、第30回通常総代会において定数見直しの承認をいただきました。今後は、農協総代、組合員の皆様のご理解、ご協力をいただきながら総代選挙規程に基づき進めさせていただきます。

より一層のご理解とご支援を賜りますようお願いします。

協同活動の成果

令和２年11月30日現在

組合員数	㊊個人 7,409 団体 5	㊥個人 2,644 団体 172
貯金	700億1,851万円	
貸出金	112億7,492万円	
購買品供給高	6億5,455万円	
販売品販売高	2億6,731万円	
共済保有高	1,832億6,259万円	
出資金	9億2,841万円	

12月号 目次

3　2020年 新しい生活様式の中で
4　農薬の適正使用
5　農会長会視察研修
6　特産の自然薯出荷最盛、ふれあい出前講座
7　赤カブ栽培、第2回 エンジョイ・ライフ・クラブ
8　人なつっこい長野さん家の「ニワトリ」
　生活応援キャンペーン抽選会
　ジュエリー＆オシャレフェア
9　ほっとトピックス
10　頭の体操、1月のあなたの運勢
11　うちの子自慢、JAハリMAN、あぐりスマイル
12　東公文のかかし、ウィークデーマーケット
　にこにこマートソフトオープン
13　ほのぼの広場、みどりの健康百科
14　JAハリマからのお知らせ
16　年末年始期間の営業案内

行事あんない

12月

17日　一宮町農会長会
18日　総務金融委員会、経済委員会
　第５回　きらきら講座
18日･19日　灯油持ち帰りキャンペーン
22日　千種町農会長会
　第３回 エンジョイ･ライフ･クラブ
　寄せ植え教室
23日　波賀町農会長会
26日　第９回　理事会

1月

19日　経済委員会、総務金融委員会
　第５回 きらきら講座
　ローン相談会(各営業部)
　年金相談会(一宮営業部)
22日･23日　灯油持ち帰りキャンペーン
26日　第10回 理事会

理事会だより

第8回 理事会（令和2年11月26日開催）

「報告事項」
①主な処理事項と行事の報告について
②組合員加入および脱退報告について
③内部監査の品質評価実施報告について
④大口信用供与の経営状況について
⑤令和2年度上半期資産自己査定結果報告について
⑥令和2年度もち米（玄米）販売価格について
⑦㈱グリーンホームハリマの第2四半期末財務状況報告について
⑧総代支部長会及び地区部長会報告について
⑨営業部運営委員会報告について
⑩総務金融委員会報告について
⑪経済委員会報告について

「提出議案」
第1号議案
固定資産の処分について
第2号議案
令和2年度上半期監事監査報告について
第3号議案
出資口数の減少について

2020年 新しい生活様式の中で
～コロナ禍の一年～

令和2年も残すところあとわずか。今年は新型コロナウイルスに振り回された一年でした。
JAでも計画されていたさまざまなイベントや行事が中止や延期になりました。
コロナに始まって、コロナで終わろうとしている2020年。それでも今年あった、あんなことやこんなこと覚えていますか？
いろいろあったこの一年を振り返ります。2020年の出来事…。

JA共済の「アンパンマン交通安全キャラバン」。
アンパンマンと仲間たちが
交通安全を呼びかけました

この時季に開かれる果樹剪定講習会。
作業効率と良果多収を目指します

毎年恒例の丹波黒大豆無添加味噌造り教室。
通常の2倍の米こうじで
深いコクと旨みが生まれます

第30回通常総代会は、農協総代支部長地区代表の本人出席の他は、書面出席で行われました。それに先立ち、地区別農協総代協議会が開かれ、詳細な説明が行われました

管内の女性を対象に開講した
七期目の「きらきら講座」と
男性を対象とした四期目の
「エンジョイ・ライフ・クラブ」

良質な丹波黒大豆の
収穫に向け、
防除作業が本格化

ご近所やお友達みんなで
一緒に楽しく過ごす
「ふれあい出前講座」

「食彩館 伊和の里」で開かれた
お盆用お花市

新米の品質を慎重に査定する米検査

令和2年産の新米販売開始

令和2年度上半期の事業概況報告と
第10次中期経営計画の進捗状況について、
農協総代支部長会が開かれました

管内の子どもたちを対象とした
食農体験学習「ちゃぐりんフェスタ」。
雨の中、丹波黒大豆の枝豆収穫体験

来年はコロナが収束し、JAのいろいろなイベントや行事で皆さんにお会いできることを願っています。
よいお年をお迎えください。

農薬の適正使用

農薬の表示ラベルを確認していますか？

組合員の皆様も出荷用・自宅用問わずいろいろな野菜を栽培されると思いますが、その際、しっかりと農薬の表示ラベルを確認して使われていますか？出荷するために提出いただいた栽培履歴を確認していると、農薬の登録内容と違う使用をされているケースが見られます。

■登録の無い野菜に農薬を使用されているケース

よく見られる間違いは、登録の無い野菜に農薬を使用されているケースです。これは登録のある野菜に散布された薬剤が余り、隣接する登録の無い野菜についでに使用されることが多いと思われます。

大根には登録があってカブは登録が無い。ブロッコリーには登録があってカリフラワーに登録が無いなど、農薬によって登録の無い作物は意外と多くあります。

■希釈倍率の間違い

次によく見られるのが希釈倍率の間違いです。正しくは2,000倍希釈ですが、思い込みによって1,000倍希釈で使用されたケースです。

農薬は1,000倍希釈で使うものが比較的多いですが、高価な農薬や多くの作物で使える農薬は2,000倍や4,000倍希釈といった非常に薄い倍率のものもありますので、必ず確認してください。

通常、農林水産省の登録番号が記載してある農薬は登録どおりに使用すれば何ら問題はありませんが、勘違いや確認不足によって登録に無い使い方をしてしまうと、出荷できなかったり、人体への影響、また農薬取締法の違反により使用者に対する罰金や懲役といった罰則もあります。

下の農薬の表示ラベル(例)にあるラベルを参考に皆さんもお持ちの農薬がどのように使えるか確認してみましょう。

農薬の表示ラベル(例)

農林水産省登録第00000号

○○○○水溶剤

○○水溶剤

成分：カルタップ塩酸塩……75.0%
(1,3-ビス(カルバモイルチオ)-2-(N,N-ジメチルアミノ)プロパン塩酸塩)
結合剤等……25.0%
性状：青緑色水溶性細粒

医薬用外劇物

ラベルをよく読む　記載以外には使用しない
小児の手の届く所には置かない

【適用害虫・使用方法】
●散布剤、種もみ浸漬剤として使用する場合

❶作物名	❷適用害虫名	❸希釈倍数(倍)	❹使用時期＊	❺総使用回数＊
稲	ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ	1,500	21日	6回
	イネハモグリバエ	1,500～3,000		
	イネシンガレセンチュウ		浸種前	—
キャベツ	コナガ アオムシ アブラムシ類	1,500	14日	4回
はくさい			7日	3回
だいこん	ダイコンシンクイムシ	1,000		
なばな	コナガ アブラムシ類	1,500		
しょうが	フキノメイガ アワノメイガ			5回
さやえんどう	ウラナミシジミ		前日	3回
	ナモグリバエ	1,500～3,000		

【製造元】
○○○○○○○株式会社
○○○○○○○○○○○○○○○○

【製造場】
○○○○○○○株式会社○○工場
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

農薬使用で必ず守る項目

❶作物名　ラベルに記載されている作物にしか使用できません。
❷適用害虫　作物ごとに対象の病害虫が異なります。
❸希釈倍率　ラベルに記載されている希釈倍率より濃い濃度では使用できません。作物ごとに希釈倍率、散布量が異なります。(基準が1,500倍のものを1,000倍で散布は不可)
❹使用時期　ラベルに記載されている使用時期（収穫○○日前、浸種前など）でしか使えません。農作物への残留に直接関係するので、特に注意が必要です。
❺使用回数　ラベルに記載されている回数しか使用できません。

農会長会視察研修

農作業の省力化技術体験

波賀町・千種町合同農会長会が11月5日、千種町鷹巣で草刈り作業の安全講習会と、最新の省力化技術を体験する研修会を開きました。例年は市外の先進地を視察研修していますが、今年は新型コロナ禍の影響もあり地元での開催となりました。当日は、両町の農会長をはじめ、関係者約70人が参加しました。

管内の北部地域は棚田や傾斜地にある農地が多く、農家の高齢化も進み雑草対策が大きな課題となっています。今回は、農繁期に農家を悩ませている重労働のひとつ、ほ場畦畔の除草作業の軽減をテーマに行われました。農機センターをはじめ、JA全農兵庫と農機具メーカー協力の下、防草シートの設置展示やラジコン草刈機の実演、農業用ドローン（小型無人飛行機）を使った防除作業の実演が行われました。

ラジコン草刈機の実演では、離れた場所から操作でき、労力の軽減と危険回避になると好評でした。また、防草シートの耐久性に関心を寄せる人も多く、今後の活用に期待が持たれています。

千種町鷹巣で行われた農会長会視察研修

急斜面でのラジコン草刈機実演を見学する参加者

斜面草刈機の実演

農業用ドローンの説明

法面に設置された防草シート

こだわりの味をお届け！

特産の自然薯出荷最盛

管内で栽培されている特産の自然薯が11月下旬、出荷の最盛期を迎えました。今年は夏の猛暑や台風で支柱を飛ばされたり、モグラの被害が出たほ場があるなど生育が心配されましたが、出来栄えはまずまずでした。

収穫された自然薯は波賀営業部の集荷場に集められ、大きさや形状、重さ、色、傷の状態などの規格に合わせ5種類に選別。今年の収穫は12月中旬まで予定されています。

管内の自然薯は主に贈答用として販売される他、「食彩館伊和の里」や「道の駅みなみ波賀」などで販売されます。今年はコロナ禍でイベント等が中止になり販売の機会が減っていることから、自然薯部会では「昼夜の寒暖差を生かした栽培で粘り、味、香り、色の4要素にこだわった自然薯を味わってほしい」と呼び掛けています。

強い粘りと独特の香りが特徴の自然薯。贈答や家庭用にぜひご利用ください。

集荷場に運び込まれた自然薯

規格に合わせて選別

簡単ゲームで楽しいひととき

ふれあい出前講座

ご近所やお友達みんなで一緒に楽しく過ごそうと、ふれあい課が行っている「ふれあい出前講座」。11月13日には一宮町上岸田の公民館に百歳体操のメンバーが集まり開催しました。

音楽に合わせたお手玉遊びは何度まわしてもスムーズにいかず、1個も持っていない人や2個を握りしめている人など、思わず笑いが出ました。椅子に座ったままできる「カボチャに玉入れ」ではカボチャに見立てたビーチボールが安定せず、体を曲げないで入れるのに苦労していましたが、何回かしていると要領よくなり上手に入っていました。また、椅子に座ったまま足だけで新聞紙を破る運動「足やぶり」では、コツをつかむまで足や腰に力が入って、「簡単に思っていたけど、意外と難しくて、ええ運動になるわ」と言いながら奮闘していました。

誰でも簡単にできる運動あり笑いありのリフレッシュタイム。「楽しかったので時間が短すぎて、もっと続けたらええことできるようになるんやけど」との声も多く聞かれ、最後に全員で「ふるさと」を歌ってしめくくりました。

「カボチャに玉入れ」に手こずる参加者

新聞紙の足破り

音楽にあわせてお手玉まわし

赤カブ栽培

鮮やかな自然の赤色を守り続けて60年

赤カブ収穫中の小椋さん

波賀町鹿伏、ススキの穂が風になびく山沿いの畑200平方メートルに、色鮮やかな赤カブを栽培している小椋つや子さん84歳。この時期は自宅の川向こうにある畑に毎日通って収穫しています。

上皇ご夫妻と同じ昭和34年4月10日に小椋家に嫁いでから60年、舅さんたちの農業を引き継ぎお勤めされているご主人と共に農作業に精を出していました。数年前にご主人を亡くしてからは息子夫婦の協力を得ながら、様々な野菜を栽培し、特に地元でも少なくなった赤カブを栽培しています。収穫した赤カブはそのまま新鮮野菜として出荷するものと、酢漬けにして出荷するものがあり、「食彩館 伊和の里」や波賀の「道の駅」に息子さんとお嫁さんが届けてくださるそうで、家族ぐるみで出荷に携わっています。

この赤カブは「大野紅カブ」という品種ですが、低温で日当たりのよい場所で栽培するとアントシアニンをより多く含むようになり、紅色が一層鮮やかになるということで、鹿伏の土地や気候は栽培に非常に適しており他で栽培された同品種の赤カブとは一味違うすばらしい発色となっています。酢漬けも酢と砂糖の加減に微妙な調整があり、小椋さんの味付けはほんのり甘酸っぱく絶妙な味です。

畑は自宅の作業場から川向こうによく見えていますが、橋までが遠くかなり回り道をしていかねばなりません。また、周りの田はすべて休耕田になっており灌水するためにパイプを引くなど、苦労も多いようです。

いつまでもお元気で、この鮮やかな赤カブを守っていってください。

午前中に収穫し
きれいに洗って出荷準備

見事な紅色の赤カブ

完成品を前に記念撮影

わら縄に吊り下げた昔ながらの吊るし柿

第2回 エンジョイ・ライフ・クラブ

昨年好評の「吊るし柿教室」を、今年も千種町の村上廣恭さんを講師に迎え11月10日、第2回エンジョイ・ライフ・クラブで15人の受講生の参加のもと実施しました。

保存方法やカビ対策などの説明後、柿の皮をむくグループと柿を吊るす細縄をなうグループに分かれてスタート。出来上がれば交代して全行程を各自で仕上げるようにしました。今年の柿はとても大きな愛宕柿で、渋が残らないように皮やへたの周りのガクを綺麗に取り除くように指導を受けむいていきました。細縄は、ヒゲを火であぶり余分なごみを取り除いて整えます。仕上げは皮をむいた柿のへたを手製の縄に吊るして熱湯消毒し完成です。参加した受講生は、「ひとりでするよりみんなですると楽しくできる。皮むきも縄ないもまずまずの出来」と顔をほころばせていました。

完成した吊るし柿は、風通しがよく雨が直接当たらない場所で2週間ほど天日乾燥させると甘い干し柿になります。

吊るし柿を作る受講生